

知っておきたい 診療技術

形成外科



形成外科 主任医師
宮澤 季美江

平成26年4月より、形成外科を開設しました。形成外科では主に体表に生じた変形や組織欠損などを、できるだけ元に近い状態に回復させる治療を行っています。きずをきれいに治す、治りにくいきずを治す、創傷治療を専門とする診療科です。

- 【対象疾患】**
- 外傷（やけど、すり傷、切り傷、顔のけがなど）、傷あと
 - 腫瘍（皮膚軟部組織の良性、悪性腫瘍の切除、再建）
 - 小児先天性疾患（生まれつきの体表の異常）
 - 治りにくいきず（床ずれ、糖尿病に伴う足のきずなど）
 - その他（眼瞼下垂、爪変形など）

【高周波ラジオ波メスによる腫瘍切除】

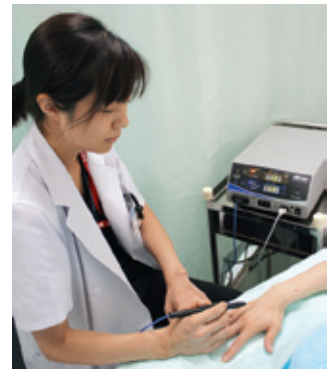
平成26年5月より皮膚良性腫瘍の切除等に使用する高周波ラジオ波メス（エルマン社サージトロン®デュアル）を導入しました。高周波エネルギーが治療部位へ集中的に作用し、周囲の熱損傷は最小限に抑えられます。そのため従来の治療法に比べて切除後の傷あとが目立ちにくく、外来で処置が可能です。隆起性の病変では、必要に応じて切除後に病理検査を行い、良性のもので間違いのないかどうか確認します。

*ただし、皮下のできものや初めから悪性腫瘍（皮膚がん）が疑われるものなど、本治療が適さない場合もあります。



脂漏性角化症などの良性疾患

《高周波ラジオ波メスの対象疾患》
色素性母斑（ほくろ）、脂漏性角化症（老人性いぼ）などの皮膚良性腫瘍



高周波ラジオ波メス サージトロン®デュアルを使用したほくろの除去

【傷あとのケア】

手術後の傷あとができるだけ目立たないように切開や縫合の仕方を工夫しています。また、やけどやけがが治った後にも、日焼けの予防やテーピングなど、ご自身で行っていただくアフターケアを指導しています。

【巻き爪に対するワイヤー治療】

巻き爪に対して、形状記憶合金ワイヤーを用いた矯正治療を行っています。爪の2ヶ所に針で穴をあけワイヤーを挿入します。爪の伸び方に応じて1〜2ヶ月に1回挿入し直すと徐々に爪の形が矯正されていきます。早い方では挿入直後から痛みが軽くなります。皮膚に針を刺したり皮膚を切ったりする必要がなく、麻酔は不要です。外来通院で治療が可能であり、治療中の日常生活の制限はほとんどありません。

*本治療は保険適応外となりますので、料金等につきましては外来でご相談ください。



治療後 治療前
巻き爪に対するワイヤー治療

患者さんの状態に合った適切な治療法を提案させていただきますので、「これくらいで病院にかかってもいいの?」とお悩みの方もお気軽にご相談ください。
*しみとり、しわとり、脱毛などの美容診療は行っておりません。

形成外科受付時間

月	14:00 ~ 16:00 (予約のみ)
火	—
水	8:30 ~ 10:00
木	8:30 ~ 10:00
金	14:00 ~ 16:00 (予約のみ)
土	—

*診察は整形外科外来にて行っております